TTC ゆった～り山行実施記録表　2018年5月28日　報告者:Y.M（1/6）

山行名	**高野山霊跡巡りと高野山参詣道「町石道」ウォーキング　〔和歌山県〕** （金剛峯寺・壇上伽藍・霊宝館・奥の院／高野山町石道～丹生都比売神社／九度山慈尊院・真田庵・大阪道頓堀界隈）
実施日	平成30年5月12日(土)～14日(月)　2泊3日　公共交通機関利用
天候／参加人員	天候：ｺｰｽﾀｲﾑ欄に記載　レベル：★★　参加者：申込12名/実施12名（男3名／女9名）
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	省略
参加メンバ	省略
費用 **一人；47,640円** (小田原起点:JR ｼﾞﾊﾟﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ30%割引利用8人) 同上(往路 20%／帰路 30%割引利用 2 人)::48, 390円。同上(往復20%引利用)：49,640円: ｶﾝﾊﾟ金540円	**４７，６４０円(交通費￥25,408+宿泊費￥20,520+拝観料・雑費・通信費・ｶﾝﾊﾟ金等¥1,712)** **交通費**　JR(ｼﾞﾊﾟﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ30%割引利用;8名)往復(往復;乗車券+新幹線座席指定券(小田原ー新大阪：往路指定券割引なし)@19,390/同左20-30%引利用(2名)@20,140、20%引(1名)@21,390、往路:南海電鉄難波→高野山特急+ｹｰﾌﾞﾙｶｰ@2,085、高野山内ﾊﾞｽ（①高野山→千手院橋@290、②千手院橋→奥の院@220、③刈茅堂→千手院橋@140）@650、ﾀｸｼ各3台乗車料金(①大門→矢立茶屋￥7,350、②丹生都比売神社→湯の里このの¥10,980、③湯の里このの→九度山慈尊院¥4,870)/ﾀｸｼ代計¥23,200/12人：一人当たり@1,933、個人支払い交通費(PASMO等):大阪ﾒﾄﾛ新大阪⇔なんば@280x2、九度山→難波@790)/個人支払い現地交通費合計@1,350/**①交通費合計(JR30%引利用ﾒﾝﾊﾞの場合)：@25,408、宿泊代(夕朝食付)**：5/12宿坊地蔵院(和室4)@9,720、5/13湯の里このの(4人部屋3)@10,800**②宿泊費合計@20,520、　その他の費用：**拝観料（金剛峯寺@500, 根本大塔@200,金堂@200、霊宝館@600）一人当たり拝観料合計@1,500、通信費¥2,000/12人⇒@167、TTCｶﾝﾊﾟ金¥540/12人⇒@45／**③その他の費用合計@1, 712、　総費用（①+②+③）@47,640(JR30%割利用/8人)　カンパ金￥540**

所要時間 *当初計画。実行時歩行を一部短縮	3/12(土)　①金剛峯寺→壇上伽藍・霊宝館→②奥の院／歩行距離:約7km	5/13(日)　高野山町石道（矢立茶屋→二ツ鳥居→八町坂→丹生都比売神社／歩行距離:約11km*	5/14(月)　①九度山自尊陣・丹生官省符神社→真田庵／②大阪道頓堀界隈散策／歩行距離:約6km
	歩行/行動時間	歩行/行動時間	歩行/行動時間
ガイドブック	—	～5:00*	—
計画(行動)	～4:00	～8:00*	①　3:30+②2:00
実行(歩行) (行動)	①　0:30+②1:07/ ①2:58+②1:46	歩行 0:22+2:45 /行動5:45	行動 ①　2:10　+　②1:45

コースタイム　*計画段階での歩行距離17kmを雨天のため実行段階で～11.kmに短縮

◆5/12(土)　天候:終日快晴(歩行1::37/行動時間4:44/歩行距離～7km/歩行数～16, 000歩)

小田急線(集合6:55)　ひかり501/のぞみ201)　大阪ﾒﾄﾛ御堂筋線　0:05　特急こうや5号　ｹｰﾌﾞﾙｶｰ　路線ﾊﾞｽ

本厚木＝小田原＝＝新大阪駅/地下鉄新大阪駅＝＝なんば駅‥南海電鉄難波駅＝＝極楽橋駅～～高野山駅＝＝千手院橋ﾊﾞｽ停

5:56　6:36/7:04　9:20　9:24　9:38　9:43/10:00　11:30/11:35　11:39/11:44　11:56/11:57

0:07　0:10　0:06（仏像・曼荼羅絵等鑑賞/昼食）0:07　路線ﾊﾞｽ　0:18

——金剛峯寺——壇上伽藍(根本大塔・金堂・御社 etc)——霊宝館——千手院橋東ﾊﾞｽ停＝＝奥の院ﾊﾞｽ停——奥の院登籠堂・御廟

12:04/12:57　13:07（各堂参拝見学）13:54　14:00/14:48　14:55/15:03　15:11/15:12　15:30/16:00

14:35/15:00　15:20/15:30

0:07　(休憩)　0:37　0:05

——頌徳殿(お茶処)——一の橋入口——宿坊地蔵院(泊)　風呂17:10～/夕食18:00～

14:07/16:16　16:53　16:58到着

◆5/13(日)　天候:曇のち雨(歩行3:07/行動時間～5;45/歩行距離:～11km/歩行数～20, 000歩)

朝行6:30～/朝食7:00～　0:15（昼食購入）0:07　ﾀｸｼｰ（準備体操/ﾄｲﾚ）0:27　0:40　(88町)　0:32　0:31

宿坊地蔵院＝＝＝千油院橋東ﾊﾞｽ停——ﾌｧﾐﾘｰﾏｰﾄ——大門＝＝＝矢立茶屋(60町)——七十町石——笠木峠———百町石——

7:57　8:00　8:15/8:29　8:36/8:55　9:10/9:27　9:54/9:58　10:38/10:45　11:17

(110町/昼食/ﾄｲﾚ　)0:35(120町)　0:35（神社参拝・CoffeeBreak）　ﾀｸｼｰ

—神田地蔵堂——二ツ鳥居——丹生都比売神社/天野の里ようよって＝＝湯の里このの(泊)　温泉入浴15:30～/夕食18:00～

11:48/12:15　12:50/13:10　13:45　14:40　15:03到着

◆5/14(月)　天候:晴　(行動時間3:55／歩行距離:～6km/歩行数～12, 000歩)

朝食7:30～　ﾀｸｼｰ　0:15　(買物/休憩)　0:14　0:10　0:11　南海電鉄急行

湯の里このの＝＝慈尊院・丹生官省符神社—道の駅柿の郷くどやま——真田庵——まちかど休憩処——九度山駅＝＝難波駅—

8:27-8:34　8:36-8:44　9:20　9:35/10:00　10:14/10:23　10:33/10:43　10:54/11:18　12:26/12:35

(昼食:ﾀｺﾔｷ・串揚げ)　0:05　大阪ﾒﾄﾛ御堂筋線　(自由行動)ひかり538　小田急

—法善寺横町・道頓堀・戎橋筋・心斎橋筋・宗衛門町通り散策—— 地下鉄なんば駅＝＝JR 新大阪駅＝＝小田原駅＝＝本厚木

12:35　14:15　14:20　14:50/16:16　18:35/18:42　19:30 逢着

コースの概要、特記事項、反省事項等

◆計画立案の背景：日本を代表する大乗仏教宗派真言宗の教祖空海、あるいは没後醍醐天皇から賜った諡号「弘法大師」、唐一番の名僧真言密教第七祖「恵果阿闍梨」から第八祖を受け継いだ際に授かった潅頂名(法号)「遍照金剛」のいずれかの名を聞いたことがないという日本人はまずいまい。四国八十八箇所の霊場を開き、北海道を除く全国各地に足跡を残し、1200 余箇所の弘法清水の地名と、伊豆修善寺温泉等全国 30 数か所に弘法大師発見由来の温泉。そして、近辺の川崎大師や西新井大師(東京足立区)は大師ゆかりの寺として、多くの信者を集めており、我国きっての名僧弘法大師空海が開いた真言密教の聖地高野山の名も著名だ。

TTC ゆった～り山行においても、2016 年秋には、空海が唐から帰国して真言宗を開くまでの 11 年間、最澄とともに修行したと伝えられる京都高尾「神護寺」を訪ね、2018 年春には奈良の真言宗豊山派総本山長谷寺の朝の勤行で、空海に帰依する意の真言宗経文「南無大師遍照金剛」を繰返し唱える貴重な体験をした。

それなら、空海が 1200 年前の 816 年に真言密教の根本道場として開創した高野山を訪ね、空海の偉大な足跡と思想を学ぼうと、今回の「高野山霊跡巡りと高野山表参詣道「町石道」ｳｫｰｷﾝｸﾞ」を計画した。高野山は仏が乗る蓮華座のごとく、標高 900m 級の 8 座の囲まれた標高 700-800m の高地に 117 の寺院が並び、空海が入定した御廟に続く奥の院には、名だたる諸大名や皇室等の約 20 万基に及ぶ墓石群が一種異様な雰囲気を漂わせている。これら一帯を総称して金剛峯寺と呼ばれており、1 年前に実施したゆった～り山行ｳｫｰｷﾝｸﾞ「熊野三山と熊野古道」とともに、金剛峯寺と丹生都比売神社、並びに九度山自尊院に続く高野山町石道が、世界でも例を見ない異宗教が渾然一体となす「神道と仏教のたぐいまれな融合」を特徴とする「紀伊山地の霊場と参詣道」として、14 年前にﾕﾈｽｺの世界遺産に登録されている。我々は、金剛峯寺一帯のみだけではなく、1200 年前に空海が拓いた高野山町石道を、金剛峯寺と一体をなす「丹生都比売神社」まで歩いて辿る 2 泊 3 日行程の山旅を立案。手を挙げた 12 名のメンバとともに、5/12(土)～14(月)に実施した。

◆5/12(土)：参加メンバ 11 名が小田原駅新幹線改札口前に 6:55 までに集合。7:04 発のひかり 501 号の座席指定席に乗車し、名古屋でのぞみ 201 号に乗換えて、新大阪駅で下車。４Ｆの到着ホームで、東京駅から乗車してきた KM さんと合流。12 名揃った処で、3F の中央改札口を出て、南側に進んで大阪メトロ御堂筋線の改札を通って、天王寺方面行の 1 番ホームの前方の車両に乗車。7 駅/約 15 分乗車して、地下鉄「なんば」駅で下車。南海電鉄「難波駅」に通じる 4 番出口を探し、後は標識に導かれ、難波駅の長いエスカレータに乗って、南海電車難波駅改札口に高野山直通特急電車こうや 5 号の発車時刻 10:00 の 17 分前（予定では 10 分前）に無事到着。発車前にトイレタイムを採る余裕ができた。新大阪駅の地下鉄乗換えと地下鉄なんば駅→南海難波駅の乗換えが、少々距離が有る混雑した中を移動するため、乗り継ぎに手間取って、ひと電車遅れると、乗り換え時間がタイトなため、南海電車の特急電車に乗り遅れる畏れがあった。メンバ全員協力して、声を掛け合ってまとまってはぐれないよう、乗降駅を間違わないよう緊張して行動できたのが良かった。

小田急トラベルに御願いして、12 人分の座席指定券と乗車券を 1 ヶ月前に予約したが、4 両編成の全席座席指定の特急こうや 5 号の車内はハイシーズンの土曜日にも拘わらずまだ空席があった。1.5 時間を要して、高野線の終点極楽橋駅に到着。ここでケーブルカーに乗換え、終点の高野山駅に 11:39am に予定通り到着。昨年 10 月に高野線終点直前の上古沢駅付近で地滑りが発生し、高野線の高野口－極楽橋間がこの半年ほど不通になっていたが、3/31 に無事開通し、直通の特急こうやも運転されるようになり、小田原から、最短の 4.5 時間で高野山に到着できて、初日の行程に大分余裕が出来て助かった。

奥の院行の路線バスに 12 分ほど乗車し、奥の院方面と大門方面の分岐Ｔ字路の千手院橋東ﾊﾞｽ停で下車。今回を含め、3 度乗車することになる山内の路線バスには交通系 IC ｶｰﾄﾞに対応する設備がまだ備わっていないため、会計さんにその都度 12 人分のﾊﾞｽ料金を纏めて支払ってもらった。

真っ青の快晴の空から陽光が降り注ぎ、標高～800m の高野山の空気は少し肌寒いくらいの清々しいものだった。最初に向かったのは、徒歩 7 分の距離にある総本山金剛峯寺。中世以降、高野山の密教や祈祷に専念するが「学侶方」(1593 年豊富秀吉が母親の菩提を弔うために寄進した青巌寺)、寺院経営や書道管理にあたる「行人方」((旧興山寺)、全国に布教･勧進する僧侶管理する「聖方」の 3 派が明治初年に合併して、現在の総本山金剛峯寺になったといい、以来高野山真言宗管長がこの寺に居住し、座主を務めているという。

参道の両脇には薄いピンク色の花を見事に咲かせたシャクナゲがお出迎え。高野山中の各所で見かけたこのシャクナゲは、関東の山中でよく見かけるアズマシャクナゲとは別種で、紀伊半島以西に多い日本固有種のツクシシャクナゲ（葉裏に褐色の綿毛が特徴）とその変種のホンシャクナゲ（葉裏に綿毛なし）の 2 種類だという。高野山山内の至る所に群生しており、花が真っ白のものもあった。その他、宿坊の庭等には、真紅のヤマツツジや園芸種のクルメツツジの類いのツツジも咲いていたが、5/13 に歩いた町石道（ﾁｮｳｲｼﾐﾁ）の山中や丹生都比売(ﾆｳﾂﾋﾒ)神社境内等にも、ツクシシャクナゲの花に似た薄桃色の清楚な花を咲かせる、

関東の山中ではまず見かけない野生種のツツジを多く見かけたが、正式な名前は調べてみたが分から　3/6)
なかった。高野山は気候が厳しいため、墓前に挙げる仏花は、高野槇の枝が定番で、あちこちで販売しているのを見かけた。その中で、初夏の高野山を鮮やかに彩るシャクナゲの花は、高野山を代表する数少ない花として有名のようだ。

総本山金剛峯寺の表門を潜ると、広場の先に南北 60m×東西 70m の巨大な主殿に圧倒される。主殿から新別殿に入り、お茶の接待を受けながら、真言密教の世界観を表わす「胎蔵界曼荼羅図」と「金剛界曼荼羅図」（両方合わせて両界曼荼羅という）を鑑賞。前者は誕生前の世界観を表わし、大日如来を中心に、12 のセクションに多くの菩薩や明王等が描かれた仏の地図。金剛界曼荼羅は 1461 の仏が描かれ、私たちが仏になるための道筋をビジュアル化したものだという。曼荼羅には仏像に代わりに梵字で描かれたものもあった。

この寺の見所は、日本最大級（広さ 2340m^2）の石庭「蟠龍庭」。京都産の白砂の雲海の中に、140 個の四国産の青い花崗岩を配して、雌雄一対の龍が奥殿を護っている様を表現したものという。本殿内には、数多くの襖絵の他、天皇や上皇の謁見や応接に使用された上段の間（武者隠し付）や奥書院（防寒用囲炉裏付）をはじめとする部屋、空海入滅後高野山 2 代貫主となった空海の甥「眞然大徳」の御廟等を見学。高野山内の主要な寺社は、基本的に檜皮葺のため、創建 1200 年の間に何度も火災で焼失し、大半の建物は、江戸期以降に再建された建物だ。防火設備として、檜皮葺屋根の上には雨水をためて防火用水とする大樽が乗り、随所に木梯子が屋根にかかり、屋根のてっぺんに容易に登れるよう要所に鉄鎖を下げ、防火設備としているようだ。なお、メンバの一人が、大師様に帽子を奉納してしまったようで、後で気づいて返して戴くようお願いに行ったが、叶わなかったようだ。

新緑が目にしみるアセビの生垣と、樹齢数百年の杉木立に混じって、高野山のシンボルツリー「高野槇」の巨木が続く蛇腹路を抜けて、真言密教の修行の中心地「壇上伽藍」に向かうと、壇上伽藍の中心となる朱色に輝く高さ 50m の 2 層の根本大塔が聳え立つ。空海と真然の 2 代・50 年の歳月を要して完成させたという、高野山最大の建物だが、現在の大塔は 1937 年に鉄筋コンクリート造で再建された。内部に入ると、中心に座す黄金に輝く胎蔵界大日如来を取り囲む阿閦（ｱｼｭｸ）・放生・阿弥陀・不空成就の 4 体の金剛界如来、その外側の 16 本の円柱に色鮮やかに描かれた多くの金剛界菩薩が取り囲んだ荘厳な立体曼荼羅の空間に身を置き真言密教の世界観を体感することができた。

続いて内部を見学したのは、高野山一山の総本堂「金堂」。重要な行事はこの本堂で執り行われるという。本尊と両部曼荼羅を修法する 3 壇を持つ密教大堂。現在の金堂は 1932 年に 7 度目に再建された耐震耐火の鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造。現在の本尊は高村光雲作の薬師如来像（秘仏）だが、1926 年の火災で焼失してしまったかっての本尊は阿閦如来像と推定されているそうだが、創建当時の平安初期作の座像であったこと以外分かっていないという。焼けてしまった脇持仏の 4 体の菩薩像と 2 体の明王像は、写真が残っていたため、色鮮やかに彩色された仏像として忠実に再現され、黄金に輝く薬師如来の両脇に並んでいる。また、その左右の壁には、平清盛が奉納した両界曼荼羅図（血曼荼羅）のﾚﾌﾟﾘｶ 2 枚（本物は霊宝館に収蔵、重文）が掲げられいる。両曼荼羅の中心に描かれている大日如来は、清盛自身の頭の血を混ぜて彩色したことから、「血曼荼羅」とも呼ばれているという。また、周囲の壁には、明治初期に岡倉天心を指導者とし、横山大観らとともに日本画壇を再興した 4 人の巨匠の一人である木村武山が描いた 8 枚の菩薩像が掲げられている。

この後、六角経堂を回転させたり、空海が唐から日本に向かって投げた密教の法具「三鈷杵（ｻﾝｺｼｮ）」が枝に引っかかっていたという三鈷松（松葉が三葉の珍しい松）、東塔・西塔、愛染堂、御影堂、准胝堂、孔雀堂、そして、山王堂と御社（ﾐﾔｼﾛ）に参拝して壇上伽藍の約 1 時間の見学を終了し霊宝館に向かった。

なお、高野山に真言密教の道場を創建する際に、高野山を空海に譲った丹生権現（丹生都比売大神/ﾆｳﾂﾋﾒﾉｵｵｶﾐ/天照大神の妹神）と丹生権現を祀る丹生都比売神社まで 2 匹の犬に空海を案内させた狩野権現（丹生都比売大神の御子神「高野御子大神」ﾀｶﾉﾐｺﾉｵｵｶﾐ）の 2 神を他のお堂建設に先駆けて、現在の地に祀ったのが御社。それ以来今日まで、真言密教の中心仏「大日如来」とともに、日本古来の神である権現を大切に敬う空海の神仏混合の精神は、明治維新の廃仏棄釈の困難を乗り越え、1200 年たった今日まで脈々と受け継がれており、高野山が世界遺産に登録された大きな理由の一つになっているという。なお、仏教の教義では、仏が神の姿になってこの世に現れることを「権現」あるいは「明神」といい、熊野神宮の神は熊野権現、白山神社に祀られる神は白山権現、同様に蔵王権現、稲荷明神と呼称している。3 月に経験した真言宗豊山派総本山長谷寺の朝の勤行でも、日本各地の神社に祀られている神様を、南無〇〇大権現、南無ＸＸ大明神と唱え、神仏分け隔てなく、天下の安寧と民の平和を祈願している。高野山においても御社の拝殿にあたる山王院において、高野山僧侶により、毎日、権現と明神に感謝と安寧を祈る読経があげられているという。

霊宝館では、国宝の「諸尊仏龕」、八大童子立像（運慶作）、仏涅槃図（平安時代）、阿弥陀聖衆来迎図（同）、重文の仏像、不動明王座像、大日如来像、愛染明王座像、弘法大師座像、四天王像（鎌倉時代～江戸時代）。圧巻は「弘法も筆の誤り」のことわざで知られる日本三筆の一人である空海の直筆（国宝）であろうか。高野山の主要な寺社伽藍は度重なる火災で何度も焼失しているため、1200 年の歴史を持つ名刹中の名刹にしては、往時の貴重な仏像や宝物があまり残っていない印象を持った。

フランスからやってきたツアー客に混じって、霊宝館前のベンチでエネルギチャージを兼ねて　(4/6)の小休止のあと、路線ﾊﾞｽ終点「奥の院前」までﾊﾞｽ移動。ここから辿る中の橋ルートは、新しい参道で、大師御廟まで、最短の約 1㎞。参道の両側にある墓石は、企業や団体等の慰霊碑や個人の墓石が中心で、鎌倉時代～江戸時代に建立された名だたる大名や皇族等の墓は、帰路に辿った一の橋参道に集中している。

高野三山の一座「楊柳山」から流れ出た清流玉川に掛かる「御廟橋」まで進むと、その先は大師信仰の中心地、御廟の霊域となり、写真撮影厳禁となる。なお、玉川は不動明王が護る水行場であり、御廟橋上流の清流の中には、密教で最も重要な儀式である「灌頂」を模した卒塔婆を並べた「流水灌頂」が建てられおり、亡くなられた方の御霊を清流で清めているという。10 数段の石段を登った先には、弘法大師御霊の拝殿となる「登籠堂」(現在の建物は 1964 年建立の地下 1 階・地上 1 階の鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造)があり、堂内に入ると、信者が奉納した燈籠が万燈を越え、千年近く燃え続ける「消えずの火」や平安時代からの「お照の火」等が有名。正面には「弘法」の諡号額、両側には十大弟子と、眞然大徳、祈親上人の 12 人の肖像が掲げられている。薄暗い地下の法場に入ると、信者が奉納した大師の小像が棚にびっしり祀られており、弘法大師に帰依する熱心な信者がいかに多いかが理解できた。

登籠堂の裏手には、弘法大師御廟が祀られている。空海 62 歳の 835 年 3 月 21 日の辰の刻、真言密教の教えに従い、窟に籠もって、結跏趺坐し、大日の定印を結び、そのまま入定し、金剛界大日如来になって、この世を照らし続けているという。その後、甥の眞然大徳によって、窟の上に三間四面の御廟が建てられた。1150 年を過ぎた今も、弘法大師は大日如来になって生き続けており、千年の時を超えてもなお、朝と昼の 2 度、御供所で作った生身供(食事)を御廟に運んで、供えている。このようにして、弘法大師御廟を信仰の根源とする奥の院御廟の歴史が始まった。この結果、宗派を超え、敵味方を越え、大師の傍らに眠りたいという高野山信仰につながり、奥の院入口の一の橋から約 2km の樹齢千年を超える杉木立の中に 20 万基とも言われ墓石・供養塔群が並び立つようになった。辺り一帯に漂う異様な雰囲気が、日本で一番神仏の霊感を身近に感じられるスピリティアルエリアになったのかも知れない。ただし、実際は空海 62 歳(満 60 歳)の時、病死して、荼毘に付されたというのが史実のようだ。

御廟橋を渡ってこの世に戻り、水向地蔵と護摩堂に参拝し、御供所に隣接する頌徳殿(お茶処)で一休みして、一の橋参道を辿って宿坊に向かった。御霊橋際にある三十四町石は、根本大塔を起点とする奥の院への道程を刻む町石で、壇上伽藍から御霊橋まで 3.7km(34 町 x109m)の距離にあることを示している。名だたる歴史上の有名人の苔むした大石を積んだ高さ 5m を超える巨大な五輪塔や石の鳥居、墓石等を見学しながら、一の橋参道を辿った。御霊橋の内側には、歴代天皇陵とパワースポット「みろく石」、春日局の供養塔が有り、橋を渡るとすぐに、織田信長供養塔、豊臣秀吉をはじめとする豊臣家墓所、浅野内匠頭・赤穂 47 士供養塔、加賀前田家供養塔、市川團十郎、柴田勝家、明智光秀、石田三成等の供養塔、薩摩島津家、仙台伊達家、上杉謙信・景信、武田信玄・勝頼供養塔、大岡越前、平敦盛・熊谷直美、法然や親鸞聖人、曾我兄弟等々の供養塔が並んでいる様は壮観の一語に尽きる。それにつけても、織田信長と明智光秀、豊臣秀吉と柴田勝家、徳川秀忠と石田三成、竹田信玄と上杉謙信等、かってライバルとして覇権を争った武将がすぐ傍に仲良く供養されているのは興味深い。あの世に行けば、敵味方なく、大日如来に化した弘法大師に救いを求め、極楽浄土へのお導きと、あの世での安寧を願うと言うことなのかも知れない。浄土宗や浄土真宗を起こした法然や親鸞も空海に帰依していたようだ。また、多くの慰霊塔の正面に神社のシンボル「石鳥居」が多くあり、他の仏教寺院の墓地ではまず見られない珍しい光景である。これも空海が率先して唱え・実践してきた真言宗の神仏混合の信仰が、当時の民衆・武将等に支持されていた証左であろう。

奥の院一の橋参道口から 200m ほど西に戻った刈萱堂前に位置する宿坊「地蔵院」に 5:00pm 到着。高野山内には、最盛期には約 2000 寺もあったそうだが、現在では 117 寺が現存し、うち参詣者が宿泊できる宿坊は 52 寺。高野山で最も季節が良いﾊｲｼｰｽﾞﾝの週末のこともあり、計画立案段階の 1 月末時点で、評判の高い宿坊に、10 名以上の宿泊先を確保するのが困難なことから、現地宿坊協会に電話して、奥の院近くにあり、一人 1 万円以下で宿泊でき、4 部屋確保できる宿坊を紹介して欲しいとお願いして紹介してもらったのが、この地蔵院である。地蔵院は 1988 年に放火されて全焼し、その後鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ作りの宿坊として再建されたため、設備が整い、部屋も広くてきれいとのことで、この宿坊を選んだ。

我々12 名は 3 人ずつ 4 部屋に分れ、風呂に入ってさっぱりした後、6:00pm から大広間での夕食になった。二の膳付の精進料理で、高野豆腐、ごま豆腐、タケノコや野菜煮物、野菜の天ぷら等で、どれも薄味で美味しかったが、ボリュウム不足は否めず、12 名中、11 名は白米のご飯をお代りしたようだ。食事に先立ち、住職の挨拶があり、食事の接待は高野山大学の男子学生さん。この夜は、明日のｳｫｰｷﾝｸﾞに備え、全員 9:00pm 頃には就寝したようだ。

◆5/13(日):昨日朝までの天気予報では、本日は、曇のち雨で、夕方から本降りの雨が降りそうだとのことだったが、今朝確認した天気予報では、雨の降り出しが、8:00am 頃に早まり、遅くなるに従って、雨脚が強くなるとの予報に変わっていた。そこで、SLとも相談し、本日予定していた世界遺産「高野山町石道(ちょういしみち)」の約 17km のウォーキンのうち、県道が並行する大門から矢立茶屋までの前半約 6km をタクシ利用にして、雨が本降りになる前に、ゴールの丹生都比売神社に 1:00pm 頃に下山する方針を決め、メンバに説明して了承頂いた。

6:30～7:00pm の本堂での勤行に参列。参列者は TTC12 名の他、同宿の地蔵院檀家の 18 人の合わせて 30 名。阿弥陀如来の前で、般若心経等を住職に合わせ唱え、各自焼香。住職の案内で、本堂内陣内に祀られている弘法大師像、地蔵菩薩等を参拝させてもらった。前記檀家衆 18 名は神戸からﾏｲｸﾛﾊｽに乗って、この時期毎年地蔵院

に宿泊し、高野山奥の院への先祖の墓参を40数年來、続けているとのことだった。宿坊の案内書によると、 (5/6)
御供用料5万円で、遺骨を預かって、1年間、地蔵院で日々供養した後、奥の院の共同墓地に遺骨を埋葬して、行く久しく、故人の御霊を供養する制度があるとのことだった。

その後、朝食と身支度を済ませ、宿坊前のﾊﾞｽ停から、3停留所先の「千手院橋東」までﾊﾞｽに乗り、檀上伽藍境内の九度山慈尊院まで180町石を刻む高野山町石道の一町石の所在を確認し、檀上伽藍南側を走る県道沿いにある高野山内唯一のｺﾝﾋﾞﾆｴﾝｽｽﾄｱ Familymart に立寄り、昼食用のオニギリ等を各自購入。近くの有鉄ﾀｸｼ高野山営業所で大門から矢立茶屋までﾀｸｼ3台を予約してから、高野山表参道「高野山町石道」の玄関口に位置する総門であり、結界のｼﾝﾎﾞﾙ的存在である大門の見物に向かった。現在の大門は1705年に再建され、1986年修復された朱色が鮮やかな2層屋根の大門で、両脇の金剛力士像は江戸時代を代表する仏師、康意作の阿形像と運長作の吽形像。大門前の県道から、5町石と刻んだ卒塔婆石柱脇の町石道と世界遺産「高野山町石道入口」の道標を確認してから、予約しておいたﾀｸｼ3台に分乗、距離～6km/標高差～350mの急坂を約15分下って、60町石の建つ矢立茶屋に9:10am到着した。草餅が名物だという矢立茶屋は開店時刻の9:30am前で、まだ閉っていたので、軒下にｻﾞｯｸを置き、近くの公衆ﾄｲﾚで用を足し、準備体操を始めたところ、とうとう雨が降り出した。雨具のｽﾞﾎﾞﾝを履き、雨具の上着を着る人、雨傘で対応する人、銘々雨支度をして、県道を横切り、60町の卒塔婆石道柱を確認して、丹生都比売神社に向かって町石道ウォーキングを開始した。杉林と雑木林の中の緩いアップダウンの山道が続いた。山中の所々には、金剛峯寺や檀上伽藍の境内でも見かけた名称の分からない薄いﾋﾟﾝｸのﾂﾂｼﾞ、ｼﾛﾊﾞﾅを咲かせたウツギ、道端や斜面にﾏﾑｼｿｳが沢山見られたが、その他目立った花は見かけなかった。1町/109m毎に建つ町石は、約20cm角の高さ約2mの花崗岩の石柱の上に五輪の卒塔婆が載り、正面に梵字と〇〇町の刻印、サイドには、建立年月、寄進者名が刻印されている。文字が読めなくなっていたり、途中で折れてしまっている町石もあったが、確認した限り、江戸時代に建立された町石が多いようだ。ガイド本によると、空海が最初に設置したのは木製の卒塔婆だったそうだが、朽ち果ててしまったため、鎌倉時代になって、公家や全国の有力武士等が寄進して、現存するような五輪塔型の町石が建立されたと言うが、現存する町石は江戸時代に建立されたものが目立った。風化して文字が判読できない町石もあったことから、その町石が鎌倉時代に建立されたものかも知れない。また、湿地帯にｱﾔﾒが目立つ笠木峠(88町石)前後の区間では、一町毎の町石が確認できない場所もかなりあった。見逃してしまった町石もあったかも知れないが、無くなってしまった町石もあり、109m毎に必ず道しるべの町石があるとは限らないようだ。折からの雨で、元気が出たのか、登山道のあちこちに沢ガニが闊歩していた。こんなに大量の沢ガミを見るのは久しぶりだ。

左手に竹林とｺﾞﾙﾌ場のｸﾞﾘｰﾝが現れ、眼下に眺望が開けて神田集落の水田と人家が近づくと、110町石の神田地蔵堂に11:48amに到着。地蔵堂の軒先を借りて、雨宿りを兼ねての昼食を摂った。あと10町先の二ツ鳥居から八町坂を下って、丹生都比売神社に急げば、13:00発のかつらぎ町コミュニティバスに間に合いそうだったが、雨の中、先を急いでケガをしてもつまらないので、13:00発のバス乗車にこだわらず、安全最優先で、足下に細心の注意を払って、ゆっくり歩くことに決め、40分と十分なﾗﾝﾁ休憩ﾀｲﾑを摂った。矢立茶屋から丹生都比売神社の約8km間に設置されている唯一の公衆便所が、この地蔵堂を50mほど下った田んぼの近くを通る農道際にあるとの案内表示。女性陣を先頭に、ペーパはあるかしらと心配しながら、期待もそこそこに「公衆便所」処に下りていったメンバが感激して帰ってきた。なんと、こんな山奥の無人の公衆トイレに最新式のウォッシュレットが装備されていて、快適に用を済ませてきたという。近くの神田集落の住人がﾒﾝﾃしているのだろうが、さすが世界遺産登録の町石道と感激。

途中のゴルフ場で、距離150m以上の池越えﾀﾞｳﾝﾋﾙｺｰｽの第一打を正に打ち放とうとする場面に出食わした。我々がはやし立てる中、2名のｺﾞﾙﾌｧｰがﾀﾞｳﾝﾋﾙｺｰｽに挑んだが、お二人とも見事に池を越え、ｸﾞﾘｰﾝに載ったようで拍手喝采する場面もあった。ここから、10町先の二ツ鳥居に12:50に到着。すぐ先の屋根付の見晴台で休憩しているととうとう本降りの雨になった。当初計画では、この先の古峠を越え、136町の六本杉から丹生都比売神社に下山する選択肢も考えていたが、本降りになったことから、ここから八町坂を下って、丹生比売神社に直行することにした。なお、二ツ鳥居とは、町石道から丹生都比売神社に至る分岐となる120丁町石のこの場所に、空海が2基の木製の鳥居を建てたことからこの地名になった。その後、江戸時代になって、現在の2基の石の大鳥居が建立され、空海の神仏混合信仰を示す重要な遺跡として世界遺産の一つに数えられている。

ここから、天野集落に下る八町坂は、赤褐色の岩が露出した急坂で、折からの本降りの雨水で、小沢ようになった急坂をすべらないよう細心の注意を払いながら、天野集落に無事下山。集落の中をしばらく歩いて本日のｺﾞｰﾙ地点となる丹生都比売神社に1:45pmに無事到着できた。朱色が鮮やかな一間社春日造の4殿が並び、現存する春日造の社では日本最大級だという。創建は1700年前と伝えられ、現在の神殿は、室町時代に再建され、重要文化財に指定されている。主神の丹生都比売大神は、天照大神の妹神「稚日女神(ﾜｶﾋﾙﾒﾉﾐｺﾄ)」と同一神で、空海に高野山を譲った「丹生権現」、第2神は丹生都比売大神の御子神の「高野御子大神(ｺｳﾔﾐｺﾉｵｵｶﾐ)」で、空海に出会い、2匹の犬に空海を丹生権現の元に案内させた狩野権現と同一神である。なお、「丹生(ﾆｳ)」とは水銀が産出する場所を意味し、奈良県、岡山県、TTCの馴染みの場所としては、乗鞍山の西山麓に丹生の地名が現存している。当時、水銀の鉱石「丹砂(ﾀﾝｼｬ)」から採れる硫化水銀は、朱色の顔料として珍重され、また、金銀と容易にｱﾏﾙｶﾞﾑ合金を作る水銀は金銀の精製用として、また、仏像に金メッキ加工する際になくてはならない重要な鉱物として、当

時高価な値段で取引されていたという。四国や近畿の山中を廻って、これら土地の事情を熟知して　　(6/6)
いた空海は、丹生を支配する一族と昵懇の中で、当時無名に近い自費渡航の学僧空海の唐への渡航費用、並びに、高野山への真言密教道場開山とその後の膨大な寺院建設費用のかなりの部分を、水銀採掘で得た資金が充てられたのではないかと考察する空海に関する有力な学説もあるようだ。

折からの大雨で日曜日の昼下がりでも丹生都比売神社への参拝客はほとんどおらず、ゆっくり参拝し、1499 年建立の檜皮葺楼門(重文)を潜り、淀君寄進の朱色の輪橋(ﾀｲｺ橋)を渡って、第2駐車場に建つ、天野の里農産直売所「ようよって」に雨宿りを兼ねて立寄り、淹れ立てｺｰﾋで冷えた身体を温めながらのしばしの休憩。当初計画で乗車を予定していた次のｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽの発車時刻 4:30pm まで、まだ 3 時間近くあり、雨が土砂降り状態になり、この付近に大雨洪水警報が発令されたとのﾆｭｰｽも流れたことから、急遽、ﾀｸｼで今夜の宿「湯の里このの」に直行することにした。宿のある橋本市神野々までは山越えの最短のﾙｰﾄで、20 分強で到着し、3 時 3 分過ぎに早めのﾁｪｯｸｲﾝ。男性 3 人と女性 4 人は和洋室に、女性 5 人は 2 間続きの和室に落ち着き、一休みした後、別棟本館の日帰り温泉施設「湯の里」に移動して、金水だけの温泉、金水と銀水を混合した月のしずく泉等、いろいろな種類の温泉浴槽やサウナに入り、温泉を存分に楽しんだ。また、昨晩お世話になった宿坊の部屋の鍵 1 個を町石道ｳｫｰｷﾝｸﾞのお供に持参してしまったことに気づき、宿坊に朝のうちに連絡して、到着したﾎﾃﾙから宅急便で、明日までにお返しできるめどが立って、ホッとする出来事もあった。

6:00pm からの地場野菜たっぷり和会席の夕食を 1 時間以上かけてゆったり楽しんだ。和会席ｺｰｽに付いていたｱﾙｺｰﾙでは物足りなくて、地酒やﾋﾞｰﾙを追加して楽しんだﾒﾝﾊﾞもいたようだ。名水月のしずくで炊いた地元かつらぎ産米の白米ごはんも含め、提供されたｺｰｽ料理を全品残すことなく、12 名全員が完食したようだった。朝方まで降り続いた雨の音を子守歌に、9:00pm 頃には、ほとんどのﾒﾝﾊﾞは眠りについたようだ。

深夜 2:00am 頃、男性ﾒﾝﾊﾞの一人が、胸が締め付けられるような狭心痛が収まらないとの訴えがあり、ﾎﾃﾙに御願いして救急車を手配してもらった。女性ﾒﾝﾊﾞ 1 名が付添い、地元橋本市の救急病院に救急搬送を受け、検査と治療を受けた。一時心筋梗塞の疑いもあるとの診断で、もしもの場合も考えて緊張したが、原因は不整脈とのことで、応急処置を受けて元気を取り戻し、5:00am 過ぎに無事ﾎﾃﾙに戻って来るという、想定外のインシデントが発生した。なお、本インシデントの詳細は、別途「インシデント報告書」に纏め、報告済みである。

◆5/14(月):降り続いた大雨も、明け方には止み、まだ雲量は多かったが、朝日の射す好天気になった。昨夜体調を崩した男性もすっかり体調を回復し、本日も他のメンバと行動を共にすることになった。朝食後、タクシ 3 台を連ねて、高野山町石道の登り口にあたる九度山慈尊院に直行。60～70 段の石段を登って、かって、この辺一帯の荘園を管理していた丹生官省符(ﾆｳｶﾝｼｮｳﾌﾞ)神社と讃岐善通寺からやってきた空海のお母さんが住んでいたという慈尊院(どちらも世界遺産)を見学・参拝。女人禁制の高野山に登れない母を気遣う空海が、高野山山内から、母親に会いに月に 9 度も自尊院に通ったという逸話にちなんで九度山の地名が生まれたという。また、自尊院境内から丹生官省符神社に登る石段の途中にある、高野山町石道の登山口を示す、180 町石も確認できた。

このあと、道の駅「柿の里くどやま」に立寄り、地元農産物や特産品の干し柿等をオミヤゲに買い求めるﾒﾝﾊﾞが多かった。店頭で販売中の地元産清美ｵﾚﾝｼﾞをその場でｼﾞｭｰｽに加工したﾌﾚｯｼｭｼﾞｭｰｽを飲むﾒﾝﾊも多かった。

真田昌幸・幸村親子が徳川家康によって幽閉されていたという真田庵を見学した。この後見学を予定していた真田資料館と真田ﾐｭｰｼﾞｱﾑ、並びに出来れば昼食処と考えていた真田庵近くの手打ちそばの名店幸村庵も月曜日休館・休業とのことで、断念。九度駅から大阪難波直通の南海電車急行に乗って、大阪難波駅に 12:35 到着。

大阪みなみの道頓堀通や心斎橋筋界隈を散歩したことがあるﾒﾝﾊﾞは半分以下で、大半は訪れたことがないという。新大阪駅発上り新幹線ひかり 538 号の発車時刻 16:16 まで、まだ相当時間があることから、みなみの繁華街を 2 時間程度散歩することにした。先ず、昔流行した演歌で有名な法善寺横町に立寄り、苔むした水掛不動尊に水をかけてお参りを済ませた。道頓堀通に出て、かに道楽店前のたこ焼き「本家大たこ」に入り、名物たこ焼きと牛肉、玉葱、蓮根、ちくわ等の串揚げを銘々注文し、美味しく食べて昼食とした。最新のミシュランガイドに大阪のたこ焼き屋が 7 軒紹介されているそうで、入店した「本家大たこ」はその 1 軒。何処のたこ焼きが旨いか分からないので、とりあえずミシュランガイド掲載のたこ焼き屋を選んだが、たこ焼きも串揚げも期待以上に美味しかった。

この後、道頓堀通りを歩いて、旧食い倒れ食堂にあったピエロ姿のドラムたたき人形を見学。戎橋上から、観光船が行き交う道頓堀と有名なグリコのネオン看板を見て、戎橋筋を抜け、高級ショッピング店が立ち並ぶ心斎橋筋を北上してから右折し、演歌で有名なみなみの飲み屋街「宗右衛門町通り」から、再び道頓堀に戻り、大阪メトロ御堂筋線のなんば駅を見つけ、新大阪駅に。一端ここで解散し、埼玉に帰る女性メンバと別れ、小田原まで乗車する 11 名は、それぞれ買物に。 あらかじめ座席指定券を購入してあった新幹線ひかり 538 号の 6 号車座席指定席に落ち着き、約 3 時間の新幹線の旅を楽しんだ後、小田原から小田急線に乗換え、厚木市近辺在住のメンバは午後 8 時頃までに全員無事に自宅に帰着できた。

今回の空海が開いた真言密教の聖地高野山の霊跡と高野山町石道を歩く旅は、2 日目に雨で行程の一部を短縮して対応するなどの変更をし、また、メンバの一人が急に体調を悪くして、救急治療を受ける予期せぬ出来事もあったが、大事に至らず旨く対処できた。空海の偉大な業績を学び、今なお大日如来に化身して奥の院に生き続けるとされる高野山奥の院の特異でスピリチュアルな霊感を体感するなど、有意義で思い出多き旅になった。